

## 第4回俳句賞「25」奨励賞受賞「静かなる」 受賞コメント

尾崎貫太さん

今回はこのような光栄な賞を頂き、誠にありがとうございます。

俳句賞「25」は部の一つの目標として参加させていただいており、中学生の頃から自分も参加できることを楽しみにしておりました。このような状況下にも関わらず、開催して下さった運営の皆様、審査して下さった先生方には心より感謝申し上げます。

今回、連作に挑戦するのが初めてということもあり、全体の「流れ」を意識して句を作るのが大変でした。このチームのメンバーは、全員文芸部以外にも他の部を兼部しており、それぞれの特徴が句にも表れています。同じ一年生同士で句について語り合う時間は、一人で作るのとは違った楽しさがありました。

さまざまな句を一つの作品として作りあげる面白さ、難しさは他の俳句賞にはないものです。今回の経験を生かし、より良い俳句を作れるよう、日々精進していく所存です。

南幸佑さん

今回奨励賞をいただきたいへん嬉しく思います。

応募に際して最も大変だったのは、やはり春夏秋冬の句を揃えることでした。自分はいつも登校途中に歩きながら句作をしているのですが、そうするとなかなか冬以外の句が出来ず、連作をまとめるときに苦労しました。また、個人的に秋の句を作るのが苦手で、なかなか良いものが出来なかったのもかなりしんどかったです。ただ、メンバーに秋の句ばかりできるという人がいたので、最終的にはなんとか仕上がりました。互いに補い合えるのは団体戦ならではの強みだと感じます。

俳句賞「25」では他校の皆さんが複数人で作った連作を読めるのがやはり最も面白いところだと思います。1人がまとめた連作なら俳句総合誌をチェックすれば簡単に読めますが、4～6人が協働して編んだ連作を読む機会はそうそうありません。それぞれの学校の生活がなんとなく垣間見れて面白かったです。

田村龍太郎さん

俳句賞「25」に応募するにあたって、連作の難しさについて考えさせられました。句会では、自分の好きなように句を書き、自分が納得した句を出せばよいのですが、連作となると満足のいく句を作ることもさる事ながら、前後の句との兼ね合いなどがとても重要になってきます。納得のいく句がうまく連作にはまらず、泣く泣く削ることも多々ありました。ただ、みんなで連作の前に顔を寄せ合って、どのような句の並びにするかを考えていた時間は、何事にも変え難く楽しかったです。

タイトルの重要性についても考えさせられました。僕達の連作のタイトル「静かなる」は、連作全体の雰囲気や統一性を生み出していると僕自身は感じていますが、タイトルを提案してくれたメンバーに対しても素直に凄いと感ずきますし、感謝しています。

最後になりますが、このような状況の中で賞の選考にあたられた先生方、開催にご尽力頂いた関係者の皆様に心から感謝を申し上げます。昨今の忙しい社会の中で、少しでもこの連作から「静かなる」の気分を感じてもらえたら嬉しいです。

関友之助さん

今回、奨励賞を頂きました。これは嬉しいことでありました。しかし、私は連作「静かなる」に於いて三句しか携わっておらず、それらも提出直前まで決まらなかったために何とか入れたものです。今連作中の私の句も、私自身納得がいったか、と言えれば否です。二十五句を通して見てもほとんど一人に頼みきってしまった面は否めないと思います。私の実力不足が顕著に現れたと考えます。次回は、さらに上の賞を、そしてそれに相応しい句を書けるように、今度とも精進して参りたいと思います。最後に、コロナ禍という非常に難しい状況の中でもオンラインという形で開催してくださった運営の方々、審査員の方々に感謝を申し上げます。

三内洸さん

今回の俳句賞「25」は、私にとって初めての連作で右も左も分からない状態からはじまりました。

今年の部活はコロナ禍でなかなか集まって話し合うことが出来ず悔しい思いをしましたが、部活がないからこそリモート句会で話し合うという貴重な体験もありました。このような逆境にあったからこそ、仲間との団結力も高まり作品が完成したのだと思います。この作品は、全員の団結力の結晶であり、私はこれを一生の宝物にしたいです。

最後に、この貴重な機会を与えてくださり、遅くまで指導をしてくださった先生方と、私を連作に誘ってくれた友人に感謝を申し上げます。ありがとうございました。